

都市再生整備計画 事後評価シート

大在・岡地区

平成24年3月

大分県大分市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大在・岡地区		面積	979ha						
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	2,527百万円		国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ○道路(都市計画道路新設 岡臨海線、市道改良 政所一木2号線(視距、橋梁)) ○公園(寺ノ前公園)											
		提案事業	○地域創造支援事業(上水道事業、地域まちづくり活性化事業) ○事業活用調査(事業分析効果に関する調査) ○まちづくり活動推進事業(自転車利用推進調査、「大在地区」まちづくり活動推進事業)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	○道路(市道(仮称)政所角子原線)			削除/追加の理由 地元との協議の結果、本計画ルートではなく、別ルートの要望が強いため、事業を削除			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 指標1(従業者数)と指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く					
		提案事業	○地域創造支援事業(下水道事業)			汚水処理施設整備交付金とまちづくり交付金のエリアが重複しているため削除			指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く					
	新たに追加した事業	基幹事業	○道路(市道改良 角子原山ノ手1号線、市道改良 角子原山ノ手4号線、市道改良 汐見竹下線) ○公園(横塚公園)			市道改良 角子原山ノ手1号線、市道改良 角子原山ノ手4号線:幅員が狭く車両同士の離合が困難であることから、安全・円滑な交通環境の改善を図るため追加 市道改良 汐見竹下線:歩行者や自転車、自動車などの安全・円滑な交通環境の改善を図るため追加 横塚公園:地区住民の憩いの場の早期整備及び災害時における避難場所を確保するため追加			道路(市道改良 角子原山ノ手1号線、市道改良 角子原山ノ手4号線):指標1(従業者数)と指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く 道路(市道改良 汐見竹下線):指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く 公園(横塚公園):指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く					
提案事業		○地域創造支援事業(道路排水施設)			都市計画道路岡臨海線の道路排水施設を整備するため追加			指標1(従業者数)と指標2(居住者数)に関連するが、他の要因も大きいため、数値目標は据え置く						
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度		変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	従業者数	人	11,800	H17	13,300	H23	モニタリング	評価値	12,394	△	あり	岡臨海線が未供用であることに加え、景気悪化に伴う企業従業者が減少したことにより、目標達成には至らなかったものの、上水道整備や市道改良といった企業の事業環境の魅力向上に資する事業を行った結果、従業者数は従前値より増加した。	平成26年3月頃
	指標2	居住者数	人	21,000	H17	21,500	H23	モニタリング	評価値	25,081	○	あり	事業前から居住者数は増加傾向にあったが、公園の整備や歩道整備、上水道整備、市道の部分改良といったハード整備に加え、住民参加のまちづくり活動等を進めてきたことにより、地域の居住魅力が向上し、居住者数は事業実施前のトレンドを上回り、目標値を大きく上回った。	平成24年6月頃
	指標3	志村追線志村交差点の渋滞長	m	580	H17	200	H23	モニタリング	評価値	700	×	あり	渋滞長の縮減に資する岡臨海線の供用が都市再生整備計画期間中になされない状況の中で、地区内居住者数の増加や大規模な工場の操業開始等の影響により、志村追線の交通需要が増加し、渋滞長が従前値より増加する結果となった。今後、岡臨海線の全線供用に伴い、数値目標の達成が期待される。	—
	指標4	「コスモスふれあい広場」事業の参加者数	人	1,000	H18	2,000	H23	モニタリング	評価値	2,017	○	あり	「地域まちづくり活性化事業」に位置づけられた「コスモスふれあい広場」事業と「大在地区まちづくり活動推進事業」の一環で実施した花いっぱい運動やワークショップなどを通じて、住民同士の親交が深まり、連帯感が醸成され、まちづくり活動に参加する機会が高まった結果、「コスモスふれあい広場」事業の参加者数が増加し、目標値を達成した。	平成24年5月頃
	指標5							モニタリング	評価値			あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
その他の数値指標1							モニタリング	評価値						
4)定性的な効果発現状況	*花いっぱい運動を通じて、花を育てている参加者以外に、地元住民が球根や種子を無償で提供するなど、花いっぱい運動を支援する輪が広がった。また、花いっぱい運動の展開により、様々な場所で花を楽しむことができ、潤いある都市環境形成が進展した。 *自転車利用推進調査を通じた自転車の利用ルール・マナーの普及啓発により、大在駅周辺の路上駐輪が解消した。													
5)実施過程の評価	モニタリング	実施していない。	実施状況			今後の対応方針等								
	住民参加プロセス	「大在地区」まちづくり活動推進事業により、市民協働の取組みとして、住民や関係機関などによるワークショップ・社会実験を開催した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●								
	持続的なまちづくり体制の構築	「大在地区」におけるまちづくり(花いっぱい運動)の推進を図る活動を行う「大在地区育苗センター連絡協議会」が設立された。	都市再生整備計画に記載し、実施できなかった			●								

様式2-2 地区の概要

大在・岡地区(大分県大分市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 緑豊かな環境の中で、次世代型の先端産業の集積と潤いのある住居機能が調和した複合産業業務拠点の形成 目標1: 先進的な産業活動と生活環境を充実させる 目標2: 利便性と安全性が高く、潤いのある都市環境及び環境共生のまちづくりを図る 目標3: 住民参加によるまちづくり事業を行い、地域コミュニティの形成を図る	従業者数	単位: 人	11,800	H17	13,300	H23	12,394	H23
	居住者数	単位: 人	21,000	H17	21,500	H23	25,081	H23
	志村迫線志村交差点の渋滞長	単位: m	580	H17	200	H23	700	H23
	「コスモスふれあい広場」事業の参加者数	単位: 人	1,000	H18	2,000	H23	2,017	H23

▲地域まちづくり活性化事業
(コスモスまつりに向けた種まき活動の様子)

▲寺ノ前公園

▲横塚公園

▲市道 角子原山ノ手1号線
(離合箇所の整備)

▲市道 角子原山ノ手4号線
(道路拡幅)

▲市道 政所一木2号線
(視距改良)

▲市道 政所一木2号線
(橋梁の部分的な拡幅)

▲市道 汐見竹下線
(歩道と植栽帯の設置)

▲都市計画道路 岡臨海線
(整備途中)

▲「大在地区」まちづくり活動推進事業
(ワークショップ・社会実験の様子)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・岡地区と大在地区や臨海部とを連絡し産業立地を牽引する都市計画道路の整備が完了せず未供用の状況であるため、産業立地環境の向上、周辺道路等の渋滞緩和は課題として残されている。 ・自動車交通の隘路となっていた箇所の市道改良により、安全・円滑な交通環境は改善したが、安全・円滑な交通環境の実現に向けては、市道改良が求められる箇所が残されており、引き続き対策を実施していく必要がある。 ・避難場所ともなる公園整備により安全なまちづくりは進んだが、津波被害の恐れがあるエリアにおける津波に対する避難場所の確保は課題として残されており、対策を実施していく必要がある。 ・公園の整備、自転車の利用ルール・マナーの普及啓発による大在駅周辺の路上駐輪の解消、花いっぱい運動の展開によるまちの潤いの創出などにより、居住魅力が向上し、居住者数は大きく増加した。 ・花いっぱい運動や地域イベントの継続した実施により、「コスモスふれあい広場」事業への参加者も増加し、地域住民の連帯感やまちづくり活動への参加意識が高まった。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路岡臨海線の整備を推進し、志村迫線の渋滞緩和と産業立地環境の向上を図る。 ・事故の危険性が高い市道の区間において、市道改良により、交通の安全性の向上を図る。 ・津波被害の恐れのあるエリアでは、津波に対する避難場所を確保し、防災性の向上を図る。 ・居住魅力の一層の向上に向けて、公園の整備、自転車利用に関する啓発やワークショップ等の継続的実施による自転車利用の促進を図っていく。 ・整備された公園や歩道について、地域住民と協働した維持管理を継続して行う。 ・花いっぱい運動など地域の魅力創出に向けた取組みを地域住民が主体となって継続していけるよう活動環境の整備を図る必要がある。